

HAMADA 教育魅力化コンソーシアム 令和 4 年度第 2 回役員会 議事録

- 日 時 令和 4 年 11 月 17 日（木）10：00～11：30
- 場 所 浜田市立中央図書館 2 階多目的ホール
- 出 欠 出席役員 13 名（欠席役員 3 名）
- 結 果 取組報告と意見交換のみ（議決事項なし）

主な意見等

[会長あいさつ]

本日は HAMADA 教育魅力化コンソーシアムの第 2 回の役員会にお集まりいただきありがとうございます。

さて、今日の会議では、次第のとおり今年度の取り組みの中間報告を行ったのち、今年度下期の事業や来年度の活動方針について協議をさせていただきます。

コンソーシアムの活動について、課題はいろいろあるかと思いますが、2 年目を迎えるにあたり、私は、少しずつでも確実に前進していると感じています。

その理由としまして、高校や高校生からは、地域の課題解決に向けて何か動こうではないかというような機運を感じられます。その背景としましては、県立高等学校では、今年度中に学校運営協議会を設置されることが関係しているように思います。

本日は、意見交換の議題として学校運営協議会のことを挙げていますので、委員の皆さまから意見を伺いたいと思います。

現在、コンソーシアムの取組は、高校を中心に置きながら活動を展開しているところですが、今後は、高校と地域だけではなく、高校と中学校、高校と小学校、あるいは大学など、幼稚園も含めて少しずつ連携が広がっていくことを期待しています。

当然、学校だけではこうした事業の取り組みはできません。今後とも地域のご支援をいただきながら、学校だけではなく、学校と地域が共に育っていく、そのようなことを期待しています。

本日の会議、忌憚のないご意見をいただきながら進めたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

[令和 4 年度事業中間報告]

事務局より資料に基づき、事業の進捗状況を報告した。

○役員からの意見・質問

■会長 [意見]

- ・高校地域協働活動マッチングシステムのマッチング件数が低調だという部分

で、これを盛り上げていくための手法等について、ご意見を伺いたい。ここが少しでも解決できれば、より多くの高校生が地域に出てもらえるのではないかな。

■はまだっ子共育運営委員会会長 [意見]

- ・とにかく高校生は忙しいというイメージが非常に強い。学校の年間スケジュールを事務局で取りまとめ、地域に情報提供してはどうか。

(事務局回答)

- ・学校の年間スケジュールは年度当初に学校から事務局に提供いただいている。この情報を地域に情報提供して良いか、高校と協議する必要がある、今後、協議したい。

■はまだっ子共育運営委員会会長 [質問]

- ・コンソーシアムの数値目標として、主体的に地域活動に参加した高校生の人数として150人を掲げているが、市内の高校に通う高校生は何人程度か。

(回答)

- ・市内の高校生の数は、概ね1,000人程度※と思われる。

※実際には約1,200人

■はまだっ子共育運営委員会会長 [意見]

- ・150人という人数は、地域に出ようとする意志のある高校生であり、むしろそれ以外の子どもたちを地域に繋ぐことが大切ではないか。

(回答)

- ・数値目標として150人が妥当かどうか、今後、事業の進捗状況を見ながら目標数値の妥当性を検証していきたい。また、地域活動を行う高校生の活動を広く発信していくことで、自分も地域活動に出してみようかという意識を醸成できるよう、引き続き、情報発信にも力を入れていきたい。

■はまだっ子共育運営委員会会長 [意見]

- ・海外に住んでいる卒業生もいるので、魅力化パートナーバンクに海外に住む卒業生にも参加してもらってはどうか。海外にも視野を広げていくことで、面白い取組ができるのではないかな。

(事務局 回答)

- ・是非、こうした人材にも魅力化パートナーとして参加して欲しい。そうした人材を高校生と繋ぎ、交流や体験ができるよう、コンソーシアムと学校とで一緒に連携していきたいと考えている。

■はまだっ子共育運営委員会会長 [意見]

- ・ふるさと歴史探究プロジェクトは、とても大事な取組だと思う。学芸員はもとより、浜田市立図書館にもこのプロジェクトに協力してもらえれば良いと思う。

(事務局 回答)

- ・図書館には、郷土の歴史に関係する資料も多くある。連携できることについて、一緒にやっていきたい。

■会長 [質問]

- ・地域協働マッチングシステムについては、高校生を対象としているが、中学生でも良いのではないか。中学生にも自ら学んでもらう機会になると思うので、今後の展望としては、その辺りも意識して欲しい。

(事務局 回答)

- ・現在のマッチングシステムは、地域からのマッチングシートを市内の高校の校内に掲示することで募集を募っている。加えて、魅力化コーディネーターも高校生に対して、参加を促している。中学生に広げる場合、中学校でのマッチングシートの掲示、エントリーの受付の方法等、中学校の協力が不可欠となるため、今後、研究したい。

[令和 5 年度事業方針]

事務局より資料に基づき令和 5 年度の事業方針を説明した。

○役員からの意見・質問

■浜田水産高等学校校長 [質問]

- ・地域協働活動に主体的に参加する高校生の人数について、どのように集計しているのか。

(事務局 回答)

- ・人数は マッチングシステムに参加した高校生、コーディネーターが繋いで地域に出た高校生の人数を集計している。

■浜田市まちづくりセンター合同連絡会議会長 [意見]

- ・先日、県大を卒業した方と話し機会があり、その卒業生から「出身は松江だが、浜田が好きなので県西部に就職した。」と言われた。浜田市には、引き付ける魅力があるということなので、そうした魅力を子どもたちに伝え、県外の大学に行っても「浜田に帰ってきて、ここに住むんだ」、「浜田をなんとかするんだ」という気持ちを醸成していくことが、必要だと思う。

(事務局 回答)

- ・統計資料からみると、例えば 24 歳 25 歳の頃に住民票を残して定着している割合は、大体卒業生の 3 割程度となっている。実業高校では、ホームページ

等で進路の状況と人数を公表されているが、商業高校でも半分が就職ではなく、進学されている。残り5割程度が就職する中、うち市内就職は3割となっている。将来この地域の子どもの数もだんだん少なくなる中で、就職先といろいろな構造的な問題も存在するが、地域に思いを持った子に育つような取組を推進していくとともに、グローバルに活躍する人材についても、パートナーバンクでこの地域との繋がりができるような取組ができればと考えている。

■ 浜田ろう学校校長 [質問]

・コンソーシアムの事業評価は、どのように行っているのか。また、子どもたちの思いといった、質的な評価というものは今までどんな感じで行い、令和5年度事業にどのように反映されるのか。

(事務局 回答)

・事業評価としては、島根県教育委員会が実施している『高校や地域の学習環境に関するアンケート』を活用している。例えば、『地域の人や課題などに直接に触れる機会がある』という項目では、令和3年度の市内県立高校3校の平均値は61%でしたが、コンソーシアムとして、令和4年度は64%を目指している。

■ 浜田ろう学校校長 [意見]

・目標数値というのはとても大切だと思う反面、本当に参加された生徒たちがどんな風に思って地域活動に参加したのか、その子どもたちの声を発信することで、地域活動に参加したいと思ったけど、参加しなかった子供たちも取り込めるのではないか。

(事務局 回答)

・地域に出た生徒の声というのは、現在、魅力化だよりや活動レポート等で掲載しているが、引き続き、様々な媒体を活用して発信していきたい。

■ 浜田市小学校長会 [意見]

・各高校では、それぞれの学校の特徴を活かした魅力化に取り組んでいる。こうした中、校種の異なる学校が、同じ土俵で全体事業を展開していくと、テーマによっては、その事業に調和しやすい学校と調和しにくい学校があるのではないか。

(会長 回答)

・コンソーシアムの事業については、共通事業として取り組むものもあればそれぞれの学校が取り込まれるものもあって、そのバランスをとりながら進めている。

(副会長 (浜田高校校長) 回答)

- ・浜田高校の場合、特に理数科の事業に力を入れている。一方、浜田高校の高校生の中にも地域に繋がりたい、そうした活動に参加したいという子どももたくさんいる。浜田高校としても、地域活動を経験し、浜田市に残って貢献する人づくりをしていくことも必要だと思っている。コンソーシアムを通じてそういう人づくりをしていきたい。

■浜田市立幼稚園長会 [意見]

- ・事務局から高校の教育課程外での地域協働活動への高校生の参加が少ないという説明があったが、学校の教育課程内では、本当にいろいろな取り組みをされており、そうしたことが基盤となって地域に出て行く活動に繋がっているのではないかと。子どもたちが主体的に考え、活動していく基盤をしっかりと幼少期に作る必要があると、改めて感じた。

■浜田養護学校校長 [質問]

- ・子どもたちが浜田に魅力を感じて、浜田に貢献して、できれば浜田に戻って来て欲しい、ということを考えた場合、企業との連携が重要になる。コンソーシアムにおける企業との連携はどのようになっているのか。

(事務局 回答)

- ・商業高校、水産高校では、それぞれの学校で企業と連携する中で、コラボ商品や独自商品の開発に取り組んでいる。一方、コンソーシアムの全体事業としては、企業との連携はない。現在、高校魅力化部会で各学校の教頭先生と事務局で協議しているが、新たに商工会議所と石中央商工会との部会を設置するなど、協働で何かできないか、今後、検討したい。

■会長 [意見]

- ・大変重要な指摘だったのではいかと思う。単なる職場体験ということだけではなく、逆に企業がこういうことをしてもらいたいということを発信して、高校生も「ぜひ見に行きたい」という形に結び付けていくような仕掛けがあると良いと思う。

■浜田商工会議所専務理事 [意見]

- ・進学などで県外に出た後、地元に戻ってくる割合は、島根県全体で男性5割、女性だと3割となっていると聞いている。これは県全体の数値のため、西部の石見部ではもっとその率が低いと思われる。そういう中で、コンソーシアムを中心にできるだけ企業と動いて、子どもたちに地元に戻っていただけるようにできれば良いのではないかと思います。

[意見交換①県立高校のスクール・ミッションについて]

県教育委員会が策定した『県立高校のスクール・ミッションと具体的取組の方向性（未定稿）』について、コンソーシアムの意見を踏まえ、学校として回答する必要があることを事務局で説明し、意見交換を行った。

○役員からの意見・質問

■はまだっ子共育運営委員会会長 [質問]

- ・スクール・ミッションというものは学校の何を指すものなのか。
(副会長（浜田高校校長） 回答)
- ・スクール・ミッションは、島根県あるいは地域の中において、その学校が果たすべき役割、使命を指している。このスクール・ミッションに基づき、浜田高校として、「このような生徒を募集します」というのが“アドミッションポリシー”で、「学校としてこういう教育をします」というのが“カリキュラムポリシー”となる。そして、教育の中で「このような資質能力を身につけてもらい社会に出していきます」というのが“グラデュエーションポリシー”となる。

■はまだっ子共育運営委員会会長 [意見]

- ・学校名を隠したまま、スクール・ミッションの記載事項を読んだ場合、どの県立高校にも当てはまるようなことしか記載されていない。もっと各学校の特色が分かるように記載してはどうか、と意見を提出してはどうか。

■会長（まとめ）

- ・学校名を取ってしまったら金太郎飴だなという風にならないような方が良いと思う。この場で意見がなくても、今後、お気づきの点があれば、意見集約シートに記載のうえ、後日、事務局に提出していただきたい。

[意見交換②島根県立高等学校等の学校運営協議会の設置について]

県立高等学校では、令和4年度中に学校運営協議会を設置する必要があるなか、各学校から地域に委員の委嘱を依頼した際、特定の個人に依頼が集中して、負担がかからないよう事前に調整する必要があることを説明し、意見交換を行った。

○役員からの意見・質問

■会長 [質問]

- ・県立高校は学校運営協議会を今年度もしくは来年も早々に立ち上げる必要があるということではよろしいか。
(副会長（浜田高校校長） 回答)
- ・今年度中に設置する必要がある。

■はまだっ子共育運営委員会会長 [意見]

- ・すぐに実現することは難しいと思うが、学校運営協議会の委員としてその学校の高校生が加わったら良いと思う。全国では、児童・生徒が委員として加わっている学校運営協議会有一些ある。高校生ならより主体性を持って自分たちの学校教育をどんな風にして行きたい、ということ意見をできると思う。

■浜田市教育部長 [質問]

- ・各校の委員構成の案を見た時、地方公共団体との関わり方について、各校で異なっている。この部分について、コンソーシアムとして考え方を統一した方が良いのか。

(回答 会長)

- ・整理のため、各学校から、委員構成の考え方などについて説明していただきたい。

■浜田高校校長（副会長） [意見]

- ・浜田高校については、全日制だけでなく、定時制・通信制を有しているため、そこを含めた委員構成案を考えている。
- ・浜田高校としては、浜田市教育委員会、中学校長会、こうしたところはぜひとも学校運営協議会に加わって欲しいと考えている。
- ・これまでの学校評議員にも県立大学から評議員を派遣いただいているので、引き続き県立大学にも委員として参加いただきたい。
- ・地元企業の意見も伺いたいのので、商工会議所あるいは石央商工会にも参加いただきたいと考えている。

■浜田水産高校校長 [意見]

- ・既に HAMADA 教育魅力化コンソーシアムがあることを踏まえ、コンソーシアムの委員と重複しないようメンバー構成を検討した。
- ・市内の行政機関には、市の水産振興課、県には水産試験場、島根県西部農林水産振興センターがあることから、結果として水産関係の行政を集めるような形となった。

■浜田ろう学校校長 [意見]

- ・特別支援学校は、令和 4 年 4 月から学校運営協議を設置している。
- ・本校の生徒数は、現在 7 人、そのうち浜田市内の生徒は 1 人しかいない中、地域や地元の自治会とは連携して防災等の地域課題に取り組みたいと考え、地元の自治会から委員に入ってもらっている。
- ・学校運営を経営者の視点から意見をいただきたい、と考え、浜田商工会議所青年部からも委員として参加いただいている。

- ・本校は難聴支援を地域支援として行うという使命があることから、卒業生である“ろうあ連盟”や市内の“難聴学級設置校”そして、浜田市教育委員会にも委員として参加いただいている。

■浜田養護学校 [意見]

- ・当初、障がい者理解を深めるため、幅広く委員を集めたいと考えていたが、設立初年度ということで、これまでの学校評議員を中心に参加いただいている。
- ・学校評議員以外には、新たに島根県立大学の先生に参加していただいた。
- ・当初は、新たな視点をもらえるということで、県立大学の学生を検討していたが、県立大学の教員に入っただけのことになった。

■会長（まとめ）

- ・商業高校は欠席されているが、各学校こういう思いでメンバー構成を考えていることを聞かせていただいた。学校運営協議会の委員として高校生も検討してはどうかという意見や、浜田養護学校では当初、島根県立大学の学生を検討されていた。各学校においては、学生の参加についても少し検討されても良いと思う。

他の委員においても、今後、お気づきの点があれば、意見集約シートに記載のうえ、後日、事務局に提出していただきたい。

[閉会]

■会長

それでは、以上をもって令和4年度第1回役員会を終了する。

以上